

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191800042		
法人名	医療法人 眞幸会		
事業所名	グループホームてしろ		
所在地	埼玉県草加市手代町1006-10		
自己評価作成日	平成 28年 9月 18日	評価結果市町村受理日	平成28年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 28年 10月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別の対応が可能ないように、日中は3名の職員を配置するよう努めている。近くにはスーパーや公園があり、出来るだけ散歩をするように努めている。自分で買い物に行けない時でも、職員が買物を代行し、希望の物を買えるように工夫している。健康管理については、すぐに受診が出来るよう対応している。誰でも気軽に訪問出来るよう、職員は笑顔で出迎えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に町会長や民生委員、地域包括支援センターなど、地域の関係機関の参加がある。町会に加入し、地域の防犯パトロールへの参加や、緊急時における町会の支援協力体制構築など、地域との関係を深めている。また、お祭りや餅つきなどの地域行事への利用者の参加や散歩時の近隣の方との会話などを通じて、地域住民との交流を図り、住民との絆を深めている。個々の利用者のペースで、必要とする支援を行うように努めている。利用者の隣に座って、ゆっくりと過ごす時間を大切にしている。家族からの意向を含め、利用者一人ひとりの思いや課題を把握して、それと向き合った支援に取り組んでいる。また、天気の良い日は、毎日、個々の利用者に合わせて散歩や、趣味の材料の買い出し、買い物代行など、利用者や家族の意向をできるだけ実現できるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	toireni 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、勉強会の時に確認している。その他、理念に沿った勉強会を実施している。	法人と事業所の2つの理念を明確にしている。周知方法は、玄関に掲示して、いつでも見ることができるようになっていること。そして、勉強会で支援内容を話し合い、見直しを行うことである。共有化と実践に繋げている。	もう一度、理念の再確認をして、理念に沿った支援が、行われているかを話し合いたいと考えている。実現して、理念の実践と、更なるサービス内容の充実を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩の時や地域の行事などを通じて交流している。近所のスーパーによく出かけている。運営推進会議に町会長、民生委員が参加している。町内パトロールに参加し、地域の方と交流している。	町会に加入し、お祭りや餅つきなどの地域の行事に利用者が参加している。また、日々の散歩時における、近隣の方との会話や地域の防犯パトロールへの参加等を通じて、交流を図り、地域との絆を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はできなかったが、地域の方に向けた勉強会を開催した。また実施したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者へのサービスの状況を報告している。出た意見については可能な限り実施している。	町会長や民生委員、地域包括支援センター、8人程の家族、職員が参加して、年6回開催している。会議では、事業活動や外部評価結果、目標達成計画などを報告するとともに、必要な意見をもらい、活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の地域包括センターの担当者が、運営推進会議に出席している。市には、利用状況等の報告、相談をしている。市内のグループホームの集まりに、市の担当者の出席があった。	市とは、現況・事故等の定期報告や相談、水害マニュアルの作成などの指導・助言、情報収集のほか、グループホームの集まりや事業者連絡会、市立病院の研修会への参加等を通じて、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会を通じて、正しく理解する様に努めている。玄関については電子キーであるが、外出したいときにできるように支援している。	年1回、勉強会を開いている。研修を受けた職員等が講師になり、日頃の支援活動を通じて、言葉の使い方など、気になることがないかをみんなで話し合っている。また、管理者による指導や助言、職員の心のケアとともに共通の理解と実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県の研修への参加、施設内での勉強会を行っている。職員心身の状態についても注意を払い、ストレスが蓄積しない様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	toireni 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加している。職員も勉強会で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際に、十分に時間を摂って説明している。また、疑問に関しては随時説明等を行っている。改定の時などは、運営推進会議、また文書で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情の窓口について説明している。日頃の来訪時に家族とはコミュニケーションをとるように努めている。	ご意見箱の設置や外部機関の案内のほか、に面会時や電話、運営推進会議などを通じて意見を把握し、反映を図っている。また、日頃から、家族とのコミュニケーションを大切にして、話しやすい環境を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面接時、日頃から職員の意見を聞くように努めている。カンファレンスシートには個々の意見を記入してもらっている。	年1回の個人面談や日々の会話、勉強会、カンファレンスなどを通じて、職員の意見を聞き、反映に努めている。また、日頃から、職員とのコミュニケーションを大切にして、話しやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課に添って評価している。働く人の個別の事情を考慮し、働きやすいように考慮している。研修に参加し、モチベーションを保つことが出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員の面から、思う様には出来ないが、可能な限り勉強会や研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は埼玉県グループホーム協議会、市内の交流会に参加している。職員も参加できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	toireni 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の状況を把握するとともに、ご家族にごまめに相談し、ご本人が安心できるように努めている。入居時には特に時間を割いて関わりを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に把握できなかったことも、ご家族にごまめに連絡を取るようにし、努力している。特に初日はご様子を電話でお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスを把握し、必要品、居室の準備、病院の対応、受診介助など行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況にもよるが、介護の必要な方には介護が主体となっている。自立度の高い方には、生活の場面で協力して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、ご家族の状況にもよるが、できる限り、必要品の準備や受診の付き添いのお願をしている。来訪し、一緒に過ごして頂けるよう、行事を工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者、ご家族の状況にもよる。個人個人でかなり差がある。デイサービス利用のご家族が、毎回訪ねて下さり、時間を共有している方がいる。年に数回、実家に帰る方がいる。	家族や友人、隣人等の訪問がある。電話のとりつぎや、外泊、外食、趣味の物や嗜好品の購入、自宅への送迎等を行っている。家族と協力して、関係の継続に努めている。また退所先の施設等へ訪問をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の認知症の障害の状況にもよるが、互いのコミュニケーションの仲立ちをするように努めている。利用者の関係により座席なども工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、新しい施設や入院先への訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	toireni 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向に沿えるよう努力している。困難な方についてはこれまでの暮らしを考慮し、希望に添えるように努めている。把握できる場合は、具体的に沿えるよう努めている。	利用者とは、座って、ゆっくりと過ごす時間を大切に、利用者一人ひとりの思いの把握に努めている。支援では、個々の利用者のペースで、必要とする支援を行うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を記入して頂いている。また、訪問時などに家族に話をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	こまめに日常記録を記入し、把握するように努めている。個別のケアプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については職員に周知している。家族、医師に相談したことも含め、個別に作成している。	定期的な介護計画の見直しのほかに、変化に応じた随時の見直しを行い、現況に沿った介護計画を作成している。見直しにあたり、アセスメントやモニタリング、カンファンスを行い、意見を出し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	こまめに日常記録を記入し、申し送りノートで共有し、カンファレンスを行い実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況や家族によってかなり異なるため、個別に取り組むよう努力している。利用者の家族も高齢になると、ニーズが異なってくるので対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	toireni 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の状況により差があるが、出来るように努めている。 散歩や地域への行事の参加を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療機関以外にも、家族や本人の希望を取り入れ、受けることができるように支援している。	在宅時のかかりつけ医と提携医の選択が可能である。かかりつけ医への受診介助は、原則、家族となる。利用者情報の提供のため、必要に応じて職員が同行している。提携医の訪問や必要な医療の受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は受けていない。必要時はデイサービスの准看護師に相談したり診てもらったりしている。提携の病院の看護師に相談し、助言を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のサマリーの提供を行っている。また、入院中の訪問、退院時は病院との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明している。家族の希望を聴きながら、必要なサービスへつなげている。病院、老健、特養への転院。受診の付き添いなど。	重度化した場合や終末期のあり方については、入所時において、説明を行い同意を得ている。また、入所後、利用者に変化がみられたときは、早めに家族や医師、職員が話し合い、できるだけ、家族の意向に沿った支援を行うように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行っている。救急対応時の資料をまとめ、医療への情報提供ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期訓練を行っている。その他、勉強会で対応方法を学んでいる。地域のパトロール隊に協力し、いざという時に協力が得られるように努めている。特に今年度は市より水害のマニュアル作成が求められているので対応している。	夜間想定を含め年2回、利用者とともに、火災や地震の訓練を行い、消防署の立会いや査察による指導、助言を受けている。町会との協力体制構築、及び水害マニュアルの策定に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	toireni 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛け、失敗した時の対応はその人の尊厳を傷つけないように配慮している。常に意識する様に職員に働きかけている。	年1回、勉強会を開いている。日頃の支援を通じて言葉の使い方等で、気になることがないかを皆で話し合っている。「急がない、押し付けない」利用者一人ひとりの思いを大切にした支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望に沿う様に努力している。表現できない方については、日常の様子を見ながら、可能な限り把握できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れの中で、出来るだけ出来るように努めている。 表現できない方については、その方の全体を把握することにより、安心できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望のある方には、出来るように努めている。 化粧水をつける、好みの服を選べるように援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況にもよる。利用者に無理のない範囲でやって頂いている。個別に対応している。	お茶入れや洗い物、皮むき等、できることをやりたい時に行っている。希望メニューを聞いたり、お正月の行事食や、栗ご飯、果物等の季節食、皆で採ってきた枝豆を食べる等の機会を作り、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況によって個別に対応している。十分に水分摂取ができるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。希望に応じて訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	toireni 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、布パンツを使用し、車椅子の方もトイレで排泄できるように支援している。	トイレに行けない原因やどうして排泄の自立が必要なのかを皆で話し合っており取り組んでいる。排泄チェック表から把握したパターンやサインをもとに、羞恥心等に配慮し、個々の利用者に向けた声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の果物、ヨーグルト、牛乳、必要に応じて薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には決まっているが、利用者の状況によって時間や日を改めている。たっぷり時間をとって入浴して頂いている。	浴室環境の整備をし、入浴時間や回数は、希望にできるだけ添うようにしている。好みの入浴剤や石鹸、音楽の聴取等、意向を大切にしている。また、羞恥心等の配慮や個々の利用者に向けた声かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況によって、居室の色、空調や照明を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を見えるようにしている。疑問や服薬時の変化については医師、薬剤師に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状況により差がある。出来るように努めている。散歩、買い物、手芸など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状況により差がある。散歩や買い物、趣味活動が出来るように支援している。行かない方にもお土産を用意し、楽しんでいただいている。	散歩は、天候や利用者に合わせて近くの公園やスーパー等へ出掛けている。また、趣味の材料の買い出し等の個別支援を行う他に、家族との外出、外泊に向けて日課の調整を行い、家族と協力して外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	toireni 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお預かりしている。管理の出来る方には、持って頂いている。希望があれば、一緒に買い物に行ったり、買い物を代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、対応し、電話をかけたりにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や色にこだわりのある方がおり対応している。 個々の感じ方が異なるため、難しいことが多いが、気持ちよく過ごせるように工夫している。	室温の管理をし、朝夕清掃をしている。利用者で作った折り紙の装飾や、利用者が撮った写真の掲示をし、植木やソファ等配置をしている。この空間の中で、利用者は、新聞を読んだり、趣味のカメラや編み物など、自分の時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中では難しいが、テーブルや椅子の配置をその時々で工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、ご家族の状況によって差があるが、希望に添えるように努力している。ベッド、装飾など。	エアコン、カーテン、照明器具は備え付けられている。危険物を除き、使い慣れたものや好みのものを持ち込むことができる。部屋を好きな色に統一したり、テレビを観たり、趣味に興じたり、自分の時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの高さや動線、危険を判断できるか等を考慮し、安全に生活できるよう努めている。		